

平成29年 第19回京丹後市教育委員会会議録

- 1 開催年月日 平成29年11月24日(金)
開会 午後5時00分 閉会 午後5時30分
- 2 場 所 大宮庁舎 4階 第5会議室
- 3 出席委員名 吉岡喜代和 野木三司 久下多賀子 田村浩章 安達京子
- 4 説明者 教育次長 横島勝則 教育理事 上田隆嗣 総括指導主事 松本明彦
教育総務課長 岡野 勲 学校教育課長 松本晃治
子ども未来課長 吉岡正俊 社会教育課長 吉田茂夫
文化財保護課長 吉田 誠
- 5 書 記 教育総務課長補佐 田村真知子
- 6 議 事
(1) 議案第85号 平成28年度教育委員会活動の点検及び評価報告書について
- 7 そ の 他
- 8 会 議 録 別添のとおり(全9頁)

9 会議録署名

別添の会議録は書記が記載したものであり、別添記載の正確であることを認めここに署名する。

平成30年1月5日

教 育 長 吉 岡 喜 代 和

署 名 委 員 野 木 三 司

〔招 集 者〕 京丹後市教育委員会教育長 吉岡喜代和

〔被招集者〕 野木三司 久下多賀子 田村浩章 安達京子

〔説 明 者〕 教育次長 横島勝則 教育理事 上田隆嗣 総括指導主事 松本明彦

教育総務課長 岡野 勲 学校教育課長 松本晃治

子ども未来課長 吉岡正俊 社会教育課長 吉田茂夫

文化財保護課長 吉田 誠

〔書 記〕 教育総務課課長補佐 田村真知子

<吉岡教育長>

みなさんこんにちは。本日は夕方のお忙しい時間帯にお集まりいただきましてありがとうございます。ただ今から「平成29年 第19回京丹後市教育委員会臨時会」を開会致します。

<吉岡教育長>

本日の会議録署名委員の指名を致します。

野木委員を指名しますのでお願いします。

それでは、お手元の会議次第にそって議事を進めさせていただきます。

<吉岡教育長>

議案第85号「平成28年度教育委員会活動の点検及び評価報告書について」を議題とします。

事務局から提案理由の説明をお願いします。

<横島教育次長>

議案第85号「平成28年度教育委員会活動の点検及び評価報告書について」説明をさせていただきます。

この評価報告につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならないと定められているため、この報告書を作成するものです。また、同条第2項において、点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとすることが規定されており、今回においても、大学の2名の先生の意見を付けております。

それでは、報告書の方を1枚めくっていただきたいと思っております。

内容については、目次にありますように、「自己点検・評価について」、「教育に関する学識経験者の意見」、続けて、Ⅰとして「教育委員会の活動状況」、Ⅱとして「施策評価・進捗管理調書」、Ⅲとして「学校評価自己評価」、という構成になっています。

自己点検・評価については、「平成28年度の教育活動を振り返って」を記載しています。

1枚めくってください。自己点検・評価について、平成28年度の教育活動を振り返っての部分です。京丹後市の教育委員会体制は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」による経過措置を適用しておりましたが、平成28年7月、前教育長の任期満了をもってこの法律に基づく「新教育委員会制度」へと移行し、平成28年度の教育活動は新たな体制のもと、京丹後市が目指す教育の実現に向け、さまざまな施策を推進してまいりました。

学校教育関係では、小中一貫教育をより充実したものにするため、6つの各中学校区の総称を「学園」と定め、全市域で本格的に取り組みを始めました。「いさなご小学校」の開校、学校再配置計画見直しによる新山小・丹波小と間人小・豊栄小の再配置準備、中学生の海外派遣の推進、学校施設の耐震化、空調工事の着手、子育て支援としては、大宮北保育所とこうりゅう保育所の公設民営化、放課後子ども教室の充実、社会教育面では、学校支援ボランティアの拡充、市民のスポーツ実施率向上のための取り組み、文化財事業としては、引き続き網野銚子山古墳の整備等、多様な事業を展開してきました。

29年度からは教育振興計画で定めました目指す教育をもとに、本市の懸案となっている課題解消に向け引き続き取り組みを続けるとともに、更なる教育の充実・発展に向けさまざまな教育活動を市民との協働の中で推進していくこととしています。

次ページからの教育に関する学識経験者の意見では、昨年から、以前からお世話になっている玉川大学の寺本先生と小中一貫教育研究推進協議会で顧問としてお世話になっている京都教育大学の竺沙先生の意見を付けさせていただいております。

内容を紹介させていただきます。

寺本先生からは、序論の中で、教育委員会議での丁寧な審議、重点目標も概ね達成で

きているなど一定の評価をいただいています。教育フォーラムに関しても小中一貫教育に向けて一般、保護者、教員の感想から一層の期待を寄せていただいています。いじめ防止等基本方針や通学路交通安全プログラム、子ども・子育て支援事業についても評価をいただいています。懸念材料として、教育予算の減額が続く点と、民生費が増加を続けている点を指摘いただき、就学前の保育環境の充実や確かな学力、豊かな人間性・社会性の育み、文化芸術活動、歴史文化を活かした愛着形成、健やかな体づくりの実現に向けての目標値を定めて不断の努力で取り組む姿勢を続けてもらいたいとの意見をいただきました。

本論は、5項目立てで意見をいただいています。

① 教育委員会議の開催状況等では、23回もの開催に至っていること。昨年度よりも多くなっているが、後援の承認案件や規則・要綱の一部改正、委員・人事の委嘱辞職の同意などが増えており、報告事項の精選とともに、より本質的な審議の時間を割くよう努力を求められています。

② 事務事業評価では、概ね進捗状況は良好であり、施策評価・進捗管理調書と附属資料から心配すべき点はなかった。広域化する学区にあつて「安全な通学支援」は重要であり、安全確保のための工夫が感じられる。

事務事業はよく整理されており問題は見いだせない。施策評価・進捗管理調書（内部評価結果）に関しては、PDCA方式による書式が統一され、判別しやすい。予算執行率から着実に施策が進められている。とりわけ、各重点目標に関わる事業の決算額と最終予算額、不用額、執行率を明示された点は客観的に事業の評価をしようと努力する姿勢が感じられ高く評価できる。

また、体育館等の大きな空間の安全性確保や非構造部材の落下防止工事など、老朽化が著しい小中学校の施設改修事業が進められている。これらは教育環境を整備しているだけでなく、学力など教育内容に深く関わることから一層の推進を図っていく必要がある。防災の取組は重要度を増しており、地域と連携し主体的な学びにつながる安全教育のさらなる充実を求めたい。

③ 学校評価では、前年度の成果と課題を明確化し、本年度学校経営の重点をわかりやすく書いた点は評価できる。「成果と課題（自己評価）」の欄の○印と△印に関する記述も、より具体的に記述されている。「具体的方策」の欄で記述した内容を「成果と課題（自己評価）」の欄でどのような具体的な取組で支えたのか、印象的記述にとどまらないで中身がわかるように書かれている。少ない予算の中、教育の向上に向けて教職員全員で努力している様子が伝わってくる。

④ その他学校教育活動では「授業実践力向上対策事業」に注目し、「教材研究・開発」を通してねらいが明確な授業づくりに力を入れている点は大変良いとの評価をいただいた。また、小中一貫や学校種間の連携は人口減少の市においては推進せざるを得ない。学習指導要領の改訂告示も済んだ次年度は、「深い学び」に至らせる授業実践スタイルの変革と新しい価値の創造の好機と前向きにとらえたい。

⑤ 社会教育活動、文化財保護行政、社会体育等では、「たんたん能 in 丹後」が丹後

文化会館で開催され、丹後の魅力発信に努められている点は高く評価できる。京丹後市への観光入込客数や移住など交流人口を増やす意味でも歴史的文化的魅力度を高めている施策は重要である。

総括として、報告書の書式が統一され、各種資料は見やすく整理されている。全体として昨年度と同様に前向きな印象を得た。今後ともこの方向を維持発展してほしい。小中一貫教育の推進と各種の関連施策の重点化を進め、一層の「開かれた学校づくり」に邁進してほしい。

総合評価では、教育委員会活動として適切な事業運営に努めていると評価できる。また、ニュージーランドへの中学生派遣事業は、グローバル社会の進展の中にあって地方自治体でも重要である。2020東京オリンピックが1000日を切る今日、ますます国際感覚の醸成とスポーツ振興は市民の関心を引き付けることだろう。体の健康は心の健全とつながっている。一層の進展を期待したい。と纏められています。

次に、笹沙先生からの意見です。

序論の中では、平成28年度は新教育委員会制度に移行した初年度になり、新しい体制のもとで教育長のリーダーシップのもと、市長部局との連携を強化しながら市全体で教育行政を進めていく体制が整えられ、総合教育会議における協議によって、新たな教育施策の展開がされ、2年目の教育振興計画の実現がさらに促進されることを期待とされています。

本論は、大きく3つの項目立てで意見をいただいています。

① 教育委員の活動については、教育委員会会議、管内視察など教育委員として必要な活動が活発に適切に展開されていると評価できる。学校の重要な行事に出席し、実態を適切に把握していると評価できる。今年度初めて開催された総合教育会議においても、将来を見据えた国際化、情報化に関わる課題が協議されており、展望をもって活動がなされていると評価できる。とりわけ学校教育のICT化は重要な課題であり、総合教育会議での協議が促進につながることを期待される。

② 重点目標に関する活動について、3つの活動について意見をいただいています。

1) 小中一貫教育の推進について

平成28年度より、小中一貫教育が全市展開されることになり、しっかりと定着してきたと評価できる。一貫性・系統性のある指導による確かな学力の定着という目標に関して、学力調査の結果が全国平均を上回るという目標が概ね達成されており、小中一貫教育の成果として見ることができる。教育フォーラムにおいても小中一貫教育が着実に成果を上げていることが参加者に伝わったものと思われる。また、注目されるのは、学校関係者に加えて、PTA、区長連絡協議会、民生児童委員協議会、公民館連絡協議会、社会体育関係者など地域の関係者を構成員とした協議会が組織され、地域全体で小中一貫教育を推進していく体制が整えられたことである。地域との連携を深めることにより小中一貫教育を発展させていくことが重要である。

2) 国際交流事業について

新規事業として平成28年度から着手された児童生徒国際交流事業及び国際交流員招致事業の取り組みが注目される。英語力を高めるだけでなく、様々な異文化を体験することは、児童生徒の経験を豊かにする活動として重要であり、国際交流は単独の学校による取組では限界もあり、市の事業として展開されることは高く評価される。今後事業の充実発展を図っていただきたい。

3) 生徒指導体制、教育相談体制の充実について

いじめ防止に関しては、法律に従った体制の整備と取り組みが適切に展開されている。特に、いじめ防止対策等専門委員会では、多様な専門家の視点から、いじめの問題について非常に深い専門性の高い協議が行われている。

不登校に関しては、教育相談事業による相談体制の整備、教育支援センターによる支援、各校にスクールサポーターの配置による支援など、不登校の子どもへの支援体制が整備されていると評価できるが、平成28年度は小中学校とも不登校児童生徒の出現率が増加傾向となっている点が課題である。課題をしっかりと受け止め、特に中学校において、家庭との連携、初期段階での組織的な取組などが今後の課題として挙げられており、学校においても適切に取り組まれていることは評価できる。

③ 点検、評価について

教育委員会活動の点検及び評価書の施策評価・進捗管理調書及び指導の重点、参考となる資料が、大変よく整理されており、わかりやすいものになっている。今後求められるのは、保護者や地域住民の声をさらに評価に反映させることである。それは、小中一貫教育と連動させ、学園単位で学校関係者評価の体制を整備し、保護者から評価を受ける体制を整えることが必要である。そのために、学園単位で点検、評価する体制の整備が重要である。

総括として、新教育委員会制度への移行の初年度として、総合教育会議が適切に開催され、計画に沿って順調に活動が展開されていると評価することができる。市長部局との協議を重ねる中で、新たな施策の展開も期待できる。小中一貫教育も成熟してきており、今後さらなる充実を図っていただきたい。点検、評価も適切であり、事業の展開に活用されているといえる。

総合評価では、平成24年度策定の「京丹後市の学校教育改革構想」は、将来を見据えた大胆で優れた改革構想である。その構想に基づき、学校の再配置事業が平成28年度においても進められている。この学校再配置も含めて、京丹後市では教育環境の整備に非常に力を入れて取り組んでいると高く評価できる。その成果が、市の活性化につながるように、さらに充実させていくことが重要である。今後の展開を期待したい。と纏められています。

なお、以下資料は続きますが、その部分の説明については省略させていただきます。
以上、ご審議のほどよろしくお願い致します。

〈吉岡教育長〉

議案第85号を説明させていただきました。

ご質問、ご意見等がございましたらお願い致します。

〈野木委員〉

お二方の評価が、昨年続き非常に高く大変嬉しく感じています。昨年、竺沙先生の方から、委員の方から議案の提案と言いますか、発議をして委員会を開くような形も考えてはどうかという指摘もありました。私個人としては、そういったところがまだできていないと感じていまして、そこが私の今後の課題かなど、今回の中身を読ませてもらう中でそんな感じがしています。これは私個人に対してのことです。このような高い評価を集めたことは嬉しく思っています。

〈久下委員〉

野木委員と同じようなことになるかと思いますが、私は寺本先生の評価にありました、教育委員会が、「より本質的な課題に審議の時間を割くように」というあたりが大事なかと、指摘されているとおりでなと思います。特に臨時会がたくさんあるということもありますが、この時期に必要となり行われたのでそれは仕方がないとしても、内容としてはそうであつたらうなと感じながら読んでいました。

それから、「開かれた学校づくり」というあたりが、特に、先日の教育フォーラムの中でもそのようなことが指摘されていましたが、より一層、今後も地域住民に知らせていくということが大事であるということは、指摘されているとおりでなと読ませていただきました。

〈野木委員〉

寺本先生のご指摘の中で、⑤に、社会教育活動、文化財保護行政等の部分で、「京丹後市への観光入込客数や移住など」という文面がありまして、以前教育委員会議の中で、文化財事業の提案の仕方、住民に対する提案の仕方をもう少し工夫された方が良いのではないですかというような意見を申し上げた記憶があります。その時に、教育委員会としてはあまり「京丹後市への入込客」という、そういう部分は考えなくても良いのかなと質問をしてから自問自答していたのですが、この寺本先生のご指摘で、やはりそういう入込客の数を増やすということも観点に入れながら意見を出して審議すべきだということが再認識されましたので、ここの部分は私にとっては非常に印象深く感じています。

<吉岡教育長>

今までのことに対して事務局の方からは特にはないですか。

<久下委員>

寺本先生の③の学校評価の中で、最後のところに、「少ない予算を切り詰めながらも教育の向上に向けて京丹後市の教職員全員で努力されている様子が伝わってくる」と評価をいただき嬉しく思います。教育にはいろいろと予算的な配慮もしていただいていると感じているのですが、こういうふうに捉えられているのかなと思いながら考えさせられました。事務局としては、やはり予算の面では少ないと思っておられますか。

<横島教育次長>

私もこの二人の先生の意見を聞かせていただいて、高く評価をしていただいているのは非常に嬉しく思いましたし、まだできていない課題はこういうものをというのは、それはきちっと受け止めて展開をしていかなければならないなと思っています。

寺本先生の場合は、教育予算のことまで気にかけていただいていて、実際京丹後市としては割と教育には重点的な配分をしながらも、やはり全体的には厚いとは言いながらいろいろと財政的な難しさがあって、徐々に現実的に予算の配当が厳しい状況が少しずつ出てきつつあるというのは、認識としてはあるのですが、それをいろいろな工夫で事務局としては乗り切っている部分を、先ほど久下委員がご指摘いただいたように、学校全体で工夫をして頑張っておられるという評価をしていただいているのは、非常にありがたいと思いますし、私どもとしてはできるだけ十分に予算が教育現場に回るように、今後も教育にとって必要なものは必要という訴えはしていかなければならないと思っています。以上です。

<松本総括指導主事>

私は学校評価の担当をしていますので、学校評価の自己評価報告の中で予算に関わって、各校長先生方から自己評価をされているという例はありません。と言うよりも、むしろ、ここの序論の方での教育予算のことについてという総論を踏まえて、学校評価としての具体的な評価がなされているということの関係性についての記述であろうかというふうに捉えています。

<田村委員>

私も拝見しまして、全体的に非常に評価が良く、概ね予定どおりに進んでいるということで大変嬉しく思っています。

私は一保護者として、先生方の意見にありますとおり、ICT化の促進でありますとか、国際化というところの取り組みについて、非常に高い評価をいただいていますので、是非、そのところをより強く、もっと膨らませて今後も推進していただきたいと感じています。

閉校になった学校のそのあとの利活用と言いますか、その事業の部分で、峰山小学校の旧校舎については、学校としては閉校にはなっていないので事業の対象にはなっていないのでしょうか。方向性も何もないのかなということで、話がそれるかもしれませんが、そういうことを思いましたので質問させていただきたいです。

<横島教育次長>

峰山小学校の旧講堂のある建物につきましては、ご存知のとおり丹後震災記念館と同じ設計がされたということで、丹後震災記念館の方は府の指定文化財にまでなっていて、その姉妹的とか兄弟的な建物であるという観点もありますので、一定小学校の時に覆屋の方は実際使っていたものですので、今後どのようにしていくかというのは、慎重にそういった観点も考えながら検討をしていくということが必要だと思いますが、今すぐにどうこうしようということは、今のところは文化財的な価値もあるので考えていないというのが正直なところです。

<安達委員>

子育て支援策についてですが、公設民営にしたことでサービスが向上したというふうには自己評価で書いてありますが、教育をサービスとして捉えるという考え方なのですが、サービスをたくさんして親が便利になるということと、保育の内容が上がるということは、どうも反比例するように感じるがよくあります。いろいろな面でサービスを向上するのは良いと思いますが、サービスの向上と内容が反比例しないようにしてほしいと思いますので、その辺のことをよろしくお願いします。

<吉岡教育長>

それではお諮りを致します。

議案第85号「平成28年度教育委員会活動の点検および評価報告書について」につきまして、承認にご異議ございませんか。

<全委員>

異議なし。

<吉岡教育長>

異議なしと認め、承認と致します。

最初の説明にありましたように、この評価報告書は、議会の方に提出する必要がありますので、12月12日に議員さんの手に渡ることになります。

以上で本日の議事はすべて終了と致します。

続いて、3その他ということですが何かございますか。

<吉岡教育長>

以上で第19回京丹後市教育委員会臨時会を閉会致します。ご苦労様でした。

<閉会 午後5時30分>

[12月定例会 平成29年 12月4日(月) 午前10時00分から]